



# みんな音楽 の仲間たち

倉敷管弦楽団/岡山演奏会



12/13 (月) 6:30 P.M. 岡山市民会館

# みんな音楽の仲間たち

## 〈ごあいさつ〉

「クラシック音楽は難しくてわからない」よくこんな意見を耳にします。しかし、本来音楽を楽しむ際の尺度は「わかる、わからない」ではなく、それをいかに素直に心に感じるができるかどうかではないでしょうか。

幸い、この岡山県には地元に着した素晴らしい活動を続けておられるアマチュアオーケストラ、倉敷管弦楽団があります。今夜のトヨタコミュニティコンサートでは、この倉敷管弦楽団の演奏を通じて1人でも多くの方に、生の音楽の素晴らしさを味わっていただきたいと思ひます。

最後に、このコンサートを契機に音の泉の輪が一層広がり、地域文化の向上の一助になることを祈念するとともに、ご後援を賜りました関係各位に厚く御礼申しあげてご挨拶いたします。

本日は私達の演奏会に御来場下さり誠にありがとうございます。

倉敷管弦楽団は昭和49年に創立以来ずっと倉敷で活躍しておりましたが、この度トヨタ自動車の御協賛を得てはじめて岡山で演奏会を開くことになりました。

本日の演奏会は出来るだけ多くの方に音楽の楽しさを味わって頂くために本格的な交響曲、ピアノ協奏曲から色々な楽器の紹介、バイエルをオーケストラの伴奏でひく、など非常に幅の広い内容になっています。

これを機会に皆様も私達と一緒に音楽の仲間になって頂きたく、また今後岡山市民の皆様にも倉敷管弦楽団を御声援頂きたく、よろしくお願ひ致します。

ではどうかごゆっくりお楽しみ下さい。

岡山県トヨタ販売店グループ幹事

岡山トヨタ自動車㈱代表取締役社長 梶谷陽一

倉敷管弦楽団

運営委員長 田辺幹夫

## プログラム

〈第1部〉 セレナーテ第9番 二長調 K320(ポストホルン)抜萃……………モーツァルト

楽器ア・ラ・カ・ル・ト

バイエルによるピアノコンチェルト……………三枝成章 編曲  
"オーケストラをバックにピアノを弾いてみよう"

ピアノ協奏曲 イ短調 作品54……………シューマン

休 憩

〈第2部〉 交響曲第8番 ト長調 作品88「イギリス」……………ドヴォルザーク

# 出演者の紹介



## 倉敷管弦楽団

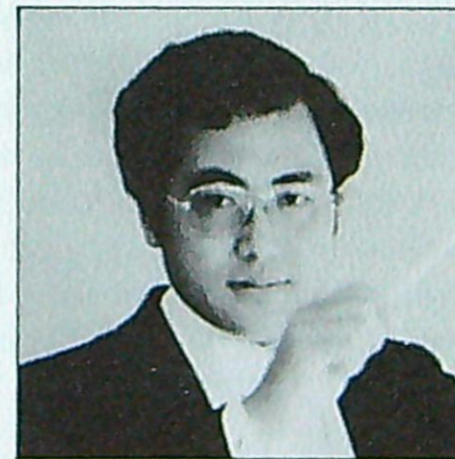
「倉敷管弦楽団」は、文化都市倉敷にふさわしいユニークな楽団として、昭和49年12月に「倉敷室内管弦楽団」という名で誕生しました。

定期演奏会をはじめとする毎年4～5回の公演を行い、定評ある美しい音色と高度の技術で倉敷ばかりでなく、岡山県を代表する楽団として評されるまでになりました。

組織も年々大きくなり、現在団員は80数名になりました。

そこで本年度より、さらに飛躍を求めて「倉敷管弦楽団」と名称を変えました。

共演したソリストもフルートのジャン・ピエール・ランバル氏、ヴァイオリンの和波孝禧氏、ピアノの深沢亮子氏、チェロの安田謙一郎氏、オーボエのディーテルム・ヨナス氏や地元ソリスト等内外から多彩な顔ぶれです。昭和55年には、團伊玖磨氏作曲の「管弦楽の為の高梁川」の初演発表会を行ない大好評でした。又オペラ出演も多く、二期会中四国支部主催の「海の子守唄」、モーツァルト「魔笛」や本年9月倉敷少年少女合唱団10周年記念の創作オペラ「パースーむパーティー」、来年にはモーツァルト「フィガロの結婚」を予定するなど、幅広い演奏活動で、これからの活躍が大いに期待されています。



## 菊池 東/指揮

倉敷市出身。広島大学工学部卒業。

ヴァイオリンを福田淑子・田中敬両氏に、指揮を榎本辰郎・早川正昭両氏に師事、在学中より広大室内合奏団の指揮者として活躍後、東京ムジカ合奏団のトレーナーを経て帰国、仲間と共に倉敷室内管弦楽団を設立。

現在、倉敷管弦楽団常任指揮者。54年度より広大室内合奏団指揮者として後輩の指導をしている。

現在、倉敷音楽協会理事、岡山音楽協会会員、倉敷市自主文化事業協会理事。



## 田中いづみ/ピアノ

岡山市出身。

昭和47年3月、岡山県立朝日高等学校卒業。51年3月、武蔵野音楽大学器楽科卒業。51年9月、ニューヨーク大学音楽部大学院演奏科に入学。53年9月、ジュリアード音楽院大学院ピアノ専攻科に入学。56年5月、ジュリアード音楽院大学院を優秀な成績で卒業。金谷方子、水本雄三、ユージン・リスト、ベヴィリッチ・ウェブスタ、スタニスラフ・ネイガウス、ジュン・カールソンの各氏に師事。51年・53年、ニューヨークにてリサイタル。54年夏、岡山にてリサイタル。55年春、ホワイト・ハウスに於けるコンサートで演奏。その他コネチカット州、ヴァーモント州でもリサイタルを聞く。57年夏、再び渡米し約3ヶ月間旧師との交流及び指導を受けて帰国。



# 演奏曲目のご紹介

〈モーツァルト〉

## セレナーデ第9番 二長調K320「ポストホルン」抜萃

- 第1楽章 アダージョ・マエストロソ——アレグロ・コン・スピリート
- 第4楽章 ロンド アレグロ・マ・ノン・トロツポ
- 第6楽章 メヌエット
- 第7楽章 フィナーレ プレスト

モーツァルトは子供の頃から、教育パパのレオポルド・モーツァルトに手を引かれて、ヨーロッパ中を音楽旅行しています。オーストリアのザルツブルグに生まれ、そこを基点として、ウィーンはもちろんのこと、ミュンヘン、パリ、海を渡ってロンドン、さらに南へ下ってローマ、ナポリにまで、交通の不便な時代によくこれだけ旅行したものと感心させられます。

この曲はそうした旅行先で得たさまざまな音楽体験が実を結ぶ1779年夏にザルツブルグで作曲されました。この曲を作る前にはパリ、マンハイムを旅行しており、この旅行でモーツァルトはかなりの音楽的成長を見せたのです。「セレナーデ」というのは想いを寄せる人の窓辺や、

命名日を祝うために野外などで演奏される音楽のことです。恋人のいる窓辺の下にギターを持ってたたずみ、優しく歌う姿や、手入れの行き届いた庭で、楽士たちが音楽を奏でている絵を本などでご覧になったことがあるでしょう。あの音楽が「セレナーデ」です。窓辺の音楽はともかく、お祝いの音楽そして野外の音楽となりますと、華やかでよく音の通る管楽器を多く使います。この曲もフルート、オーボエ、ファゴット、ホルン、トランペットが2本ずつ使われています。そして曲は全部で7つの楽章から成り立っているのですが、第6楽章のメヌエットでは、当時の駅馬車の馬をあやつる人が使ったラッパ、ポスト・ホルンが使われます。「ポスト・ホルン・セレナー

デ」の名前はここから来ています。

- 第1楽章 アダージョ・マエストロソ——アレグロ・コン・スピリート
- 第2楽章 メヌエット・アレグレット
- 第3楽章 コンチェルタンテ・アンダンテ・グラツィオーソ
- 第4楽章 ロンド アレグロ・マ・ノン・トロツポ
- 第5楽章 アンダンティーノ
- 第6楽章 メヌエット
- 第7楽章 フィナーレ プレスト

以上、7つの楽章があつて、全部演奏すると40分も時間がかかってしまいます。今回はそのうち4曲を演奏して、この曲の楽しさを味わってもらいましょう。

〈シューマン〉

## ピアノ協奏曲 イ短調 作品54

- 第1楽章 アレグロ・アフエットウオーソ
- 第2楽章 アンダンテ・グラツィオーソ
- 第3楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ

“情熱の人”シューマンは、ドイツの作曲家でロマン主義華やかな頃、19世紀前半に音楽の多方面で活躍した人です。シューマンの音楽はお聴きになればわかるように、熱い激情と、優しい感情、そして夢のような美しさに溢れています。過去の古典主義の形式などにとらわれず、感情の流れのまま筆をすすめ、時には予想外の展開をみせます。そのため、変化に富み、気紛れと感ずることもしばしばです。ですが、これがロマン主義の音楽なのです。

シューマンは本屋さんの息子に生まれました。このことはシューマンの音楽形成に重要な役わりをしています。当時のロマン主義の文学を身近に読むことができ、ピアノをたちまちに憶えた彼でしたが、母親は文学、音楽ど

ちらの方面にも進むことを許さず、ライプツィヒ大学で法律を学ぶことになりました。ところがそのライプツィヒの町は古くから音楽の盛んな街で、シューマンは次第に音楽の方面に魅かれていったのです。ライプツィヒからもどった彼はヴィークというピアノ教師について音楽を勉強するのですが、あまりに過度な練習のため指を痛めてしまい、ピアニストになることはあきらめ、作曲家として生きて行く決心をします。先生のヴィークにはクララという、素晴らしい音楽性とテクニックをもった美しい娘がおり、その後二人は大恋愛をするのですが、この話は是非伝記を読んでみて下さい。とても素敵な物語ですよ。このクララの存在もあってシューマンははじめの

うちピアノ曲ばかりを書き続けます。

シューマンはピアノ協奏曲をこの一曲しか作曲しませんでした。作品はクララとの結婚後に作られ、もちろん初演の時はクララがピアノを担当しました。

- 第1楽章 アレグロ・アフエットウオーソ
- 第2楽章 アンダンテ・グラツィオーソ
- 第3楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ

第1楽章ははじめピアノとオーケストラのための《幻想曲》として1941年に作られ、あとの2つの楽章はその4年後につくられて一つの作品となりました。あこがれと喜びに満ち、愛する人がそばにいる幸福感が漂っています。

〈ドヴォルザーク〉

## 交響曲第8番 ト長調作品88「イギリス」

- 第1楽章 アレグロ・コン・プリオ
- 第2楽章 アダージョ
- 第3楽章 アレグレット・グラツィオーソ
- 第4楽章 アレグロ・マ・ノン・トロツポ

チェコの作曲家、ドヴォルザークが活躍した時代はシューマンの時代よりずっとあとになり、19世紀の後半です。この頃になると、ヨーロッパ音楽は各国のお国柄が色濃く反映されるようになってきます。いわゆる「国民楽派」と呼ばれるもので、ドヴォルザークはその代表格とっていいでしょう。

ドヴォルザークは農民の子供として生まれています。そのせいでしょうか、彼の音楽は土の香りのする、人間味溢れるものとなっています。少しも気どったところがなく、情緒的で、日本人にも心にしみじみと訴えかける力をもっています。

ドヴォルザークの交響曲というとき『新世界より』

を思いうかべますね。確かに『新世界より』は傑作には違いありませんが、この第8番の交響曲はそれに負けず劣らずの傑作です。最近ではこちらの方が人気曲として若い人には受けているようです。それは『新世界より』より民族的色彩が濃厚なこと、全体が交響曲というより交響詩といった方がいいようなほど自由な雰囲気をもっていることと、そして即興性に富んでいることが原因と思われる。お聴きになって分かるように、美しいメロディーがつぎつぎと出てきます。ドヴォルザークはシューベルトと並ぶメロディーの豊富な人で、そのメロディーはエキゾチックな香りをもっています。そして何よりも和音が聴き手をうっとりさせるところにこの曲の大

きな魅力があるといえるでしょう。

- 第1楽章 アレグロ・コン・プリオ
- 第2楽章 アダージョ
- 第3楽章 アレグレット・グラツィオーソ
- 第4楽章 アレグロ・マ・ノン・トロツポ

# 倉敷管弦楽団出演者

## 役員

団長 小山 裕 章      常任指揮者 菊池 東  
 運営委員長 田辺 幹 夫      コンサートマスター 守屋 美枝子  
 顧問 枅本 辰 郎      佐藤 真理子

## 出演者

### 第1ヴァイオリン

○佐藤 真理子  
 中桐 佐知子  
 塚本 千秋  
 ○稲田 真理  
 浅井 直樹  
 中上 裕子  
 安藤 律子  
 ○陶山 容良  
 高橋 久子  
 橋詰 万理子  
 吉信 雅庸  
 越宗 宣子  
 今城 真弓  
 ○△守屋 美枝子

### 第2ヴァイオリン

○池上 俊昭  
 出宮 治子  
 三村 卓司  
 赤沢 和美  
 橋本文子  
 黒住 晃代  
 吉田 精一  
 野田 裕子  
 西崎 由美子  
 大平 典子  
 佐藤 緑  
 五堀 佳生  
 二木 一元

### ヴィオラ

○黒住 彰夫  
 中野 隆重  
 ○友野 良一  
 武本 克己  
 桑田 道代  
 大森 昌恵  
 深沢 秀雄  
 石川 俊道  
 吉田 典子  
 △西田 寛子

### チェロ

○西田 毅雄  
 ○田辺 幹雄  
 ○枅本 辰郎  
 津下 典子  
 小原 みずほ  
 中野 啓子  
 黒田 正典  
 田中 光子  
 石渡 日出雄  
 △光延 勢吾

### コントラバス

松本 高広  
 本屋敷 勝信  
 安田 友子  
 難波 由宏  
 松本 桂子  
 塚田 則彦  
 △曾我部 仁和  
 △大熊 桂子  
 △谷 一尚

### フルート

古川 兼生  
 松岡 倫代  
 坂口 充倫  
 △福島 悦子

### オーボエ

角田 容子  
 寺阪 至徳  
 ○△有道 惇

### クラリネット

高杉 玲子  
 岡本 あき  
 川名 光治

### バスーン

○稲田 裕彦  
 成 本 峰 子

### ホルン

○吉市 幹雄  
 西崎 大修  
 新田 厚  
 榎野 清治

### トランペット

○中桐 実憲  
 石原 憲  
 森田 裕三  
 岡本 卓也

### トロンボーン

佐藤 道郎  
 佐藤 正俊  
 谷口 一夫

### チューバ

森峰 茂樹

### ティンパニー

平松 泰一  
 西岡 啓治  
 △陶山 京子

(○印：パートリーダー及び運営委員  
 △印：今回不参加)



協奏が好きだ。

ひとつの歌を、ともに口ずさむように

おおらかに、手をたずさえて生きたい。

そんな時代の風を感じませんか。

社会と。地域と。そして、あなたと。

トヨタは豊かなハーモニーをめざします。

**TOYOTA**

岡山県トヨタ販売店グループ

岡山トヨタ 岡山トヨペット トヨタカローラ岡山 トヨタオート岡山 トヨタビスタ岡山

# BEY コミュニティ コンサート '82

- 主 催——倉敷管弦楽団  
岡山県トヨタ販売店グループ  
岡山コンサート協会
- 後 援——岡山県社会福祉協議会  
岡山市社会福祉協議会  
NHK岡山放送局  
山陽放送  
山陽新聞社  
朝日新聞岡山支局  
読売新聞岡山支局  
毎日新聞岡山支局
- 協 賛——トヨタ自動車